

沖ノ島の奉獻品にかかる新発見について

令和8年6月3日

「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群保存活用協議会・宗像大社

1 経緯

沖ノ島から出土した8万点の奉獻品は「古代東アジアの交流を示す物証」として世界遺産「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群の価値の中核をなす。

このため「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群保存活用協議会（福岡県、宗像市、福津市及び宗像大社）では、奉獻品の調査研究に取り組んでいる。

3次の学術発掘調査で出土した奉獻品8万点は、我が国における歴史的意義から、すべて国宝に指定されているが、この質量ともに膨大な沖ノ島の奉獻品をどのように保存管理していくのか、今後の方針を検討する為の調査として、令和6年度より「国宝部会（注1）」を立ち上げ、古墳時代の専門家と調査を進めてきた。令和7年度に「返納品」の調査をしたところ注目すべき成果が得られた（注2）。

2 調査対象資料

「返納品」とは、明治以降、沖ノ島に軍事施設や港湾施設が建設された際、島外へ持ち出されたと想定され、その後、宗像大社へとまとまって返納されたものである（注3）。その質と内容から沖ノ島から出土したことが確実とされる。

なお、これまで学術的な評価がされていないことから国宝などの指定は受けていない。

3 調査成果

今回の調査でわかった新たな知見は以下のとおりである。

- ① 返納品に「金銅装甲冑」の破片資料が含まれていることが明らかとなった（図3）。古墳時代の甲冑は一般的に鉄製であるが、金銅装甲冑は金メッキを施した銅板（金銅板）を用いた非常に装飾性の高い甲冑である。なお、返納品は、鉄板に金メッキした銅板を重ねている。
- ② 沖ノ島では、これまで21号遺跡（注4・図1）から甲冑の破片が出土したことが知られており国宝に指定されている。この国宝と返納品は、文様の特徴が共通することから、本来一つのものであったことが明らかになった。つまり、21号遺跡に金銅装の甲冑が奉獻されていたことが確認された。
- ③ 甲冑の破片は、冑（かぶと）だけでなく、短甲（たんこう）、頸甲（あかべよろい）が確認されていることから、甲冑一式が揃っていたと考えられる。
- ④ 本資料の類例として、甲（よろい）については、絵図による記録が残る大阪府仁徳天皇陵古墳（大仙陵古墳）（図6）と徳島県子安観音塚古墳、破片資料である大阪府城ノ山古墳の3例がある。また冑については、三の丸尚蔵館所蔵（図7）が類例となる。

型式学的な検討から復元したイメージは図5のとおりである。金銅板を全体ではなく
胄や短甲の一部(帯金)に使用することなどから、仁徳天皇陵古墳の例に非常によく
類似する。

- ⑤ 検討の結果、製作年代は5世紀中葉(古墳時代中期中葉)に位置づけられる。

4 新発見の金銅装甲胄の意義

以上の検討を踏まえると、以下のように評価できる。

- ・沖ノ島 21 号遺跡出土の金銅装甲胄が製作・奉獻された5世紀中葉は、古代東アジアを舞台に活動した「倭の五王」の時代、世界遺産「百舌鳥・古市古墳群」の最盛期に当たる。
- ・古墳時代中期、甲胄は王権中枢で製作して各地の首長に分配され、各地の首長と王権の政治的な結び付きを表すものである。中でも、金銅装甲胄は全国でもごくわずかの古墳からしか出土せず、特に王権との深い関わりがうかがわれる。本資料は、金銅装の甲と胄が揃うことから、王権の最上位のために製作された最も格式の高い組み合わせといえる。
- ・本資料は仁徳天皇陵古墳の副葬品に匹敵するもので、当時の王権がいかに沖ノ島祭祀を特別視していたかを示している。東アジアの国々と交流した倭の五王の祭祀を象徴し、古代東アジアと日本列島の古代社会を考える上で極めて重要な歴史的意義を有する。

5 特別公開について

金銅装甲胄を含む令和7年度返納品調査成果を紹介する特別展「伝沖ノ島返納品特別公開 倭王の祈り」が、宗像大社神宝館にて、令和8年7月15日(水)～8月30日(日)まで、行われます。この機会にぜひお越しください。

【注】

1) 国宝部会とは、世界遺産「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群第2期特別研究事業(R6-10)の一部として、8万点を超える国宝について、今後どのように再整理していくかを検討することを目的に、国宝沖ノ島出土品及び関連資料を調査するプロジェクトである。メンバーは下記のとおりである。

河野 一隆 (東京国立博物館)

辻田 淳一郎 (九州大学)

橋本 達也 (鹿児島大学総合研究博物館)

水野 敏典 (奈良県立橿原考古学研究所)

岡寺 未幾 (福岡県文化局九博・世界遺産・文化施設課)

太田 智 (宗像市世界遺産課)

福嶋 真貴子 (宗像大社文化局)

詳細は以下を参照されたい

岡寺・福嶋・河野・辻田・橋本・水野 2025「特集 沖ノ島祭祀を奉獻品から考える」『沖ノ島研究』第11号

2) 返納品調査成果の詳細は、2026年6月末発行予定の『沖ノ島研究』第12号「特集 沖ノ島祭祀を奉獻品から考える2」を参照されたい。本報告については、以下のとおり掲載予定：橋本達也2026「特集 沖ノ島祭祀を奉獻品から考える2 IV 沖ノ島遺跡の金銅装飾甲胄—返納品と21号遺跡出土品—」『沖ノ島研究』第12号 「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群保存活用協議会。

3) なお、沖ノ島からの持ち出しの危機に際し、宗像大社及び氏子により沖ノ島の保護を求める活動が行われている。

4) 21号遺跡は沖ノ島で最も古い岩上祭祀段階の5世紀中頃、巨岩上面に石組の祭祀遺構が築かれている。



図1 沖ノ島21号遺跡



図2 国宝 衝角付冑（宗像大社所蔵）

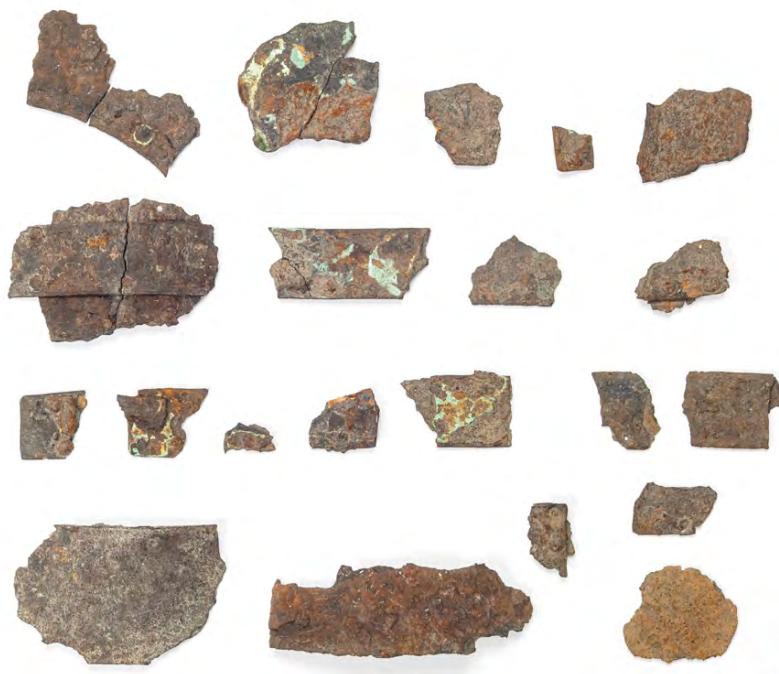
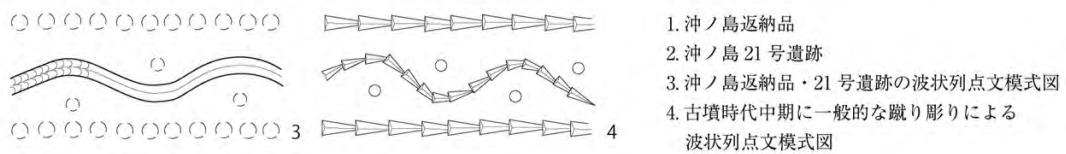


図3 返納品金銅装冑



1. 沖ノ島返納品
2. 沖ノ島21号遺跡
3. 沖ノ島返納品・21号遺跡の波状列点文模式図
4. 古墳時代中期に一般的な蹴り彫りによる波状列点文模式図

図4 沖ノ島返納品・21号遺跡の甲冑に見られる波状列点文（橋本 2026）

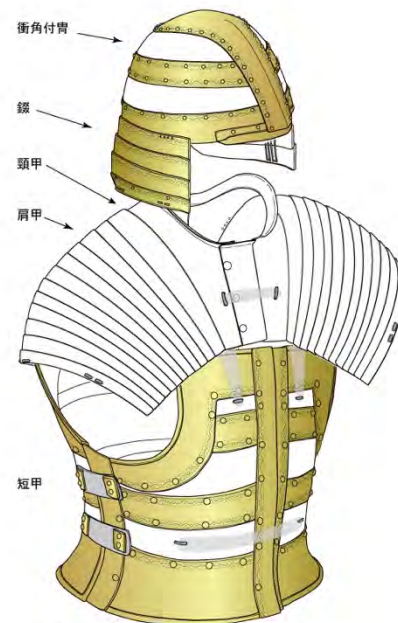


図5 沖ノ島返納品・21号遺跡甲冑復元イメージ図（橋本 2026）

権利関係上、画像表示できません、ご了承ください

図6 仁徳天皇陵古墳（大仙陵古墳）出土金銅装甲冑絵図（個人蔵・堺市博物館提供 ※転載は固く禁じます）

権利関係上、画像が表示できません、ご了承ください

図7 金銅装衝角付冑（皇居三の丸尚蔵館収蔵 ※転載は固く禁じます）